

収益力向上のための研究開発

切り花の消費の拡大のために必要な、日持ちの延長技術を開発

切り花の採花後
低温品質管理技術の開発

需要が高まる物日の安定供給のために生産者のもとで3~7日間低温管理し、流通後に消費者段階で7日以上日持ちさせて、採花後の品質保持期間を現状の1.5倍以上延長する技術を開発

実証達成

1 カーネーション

STS処理後10°Cで糖質と抗菌剤溶液を用いた湿式管理技術

2 エゾリンドウ

5°Cでブルボサス溶液を用いた湿式管理技術

3 小ギク

STS処理後5°Cで機能性段ボールを用いた乾式管理技術



技術集の作成、公表
による普及
(令和2年3月)

エチレン非依存性花きの
品質保持技術開発研究

有効な日持ち延長技術がない、ユリなどのエチレン非依存性花きの品質保持技術を開発



1 花の老化を制御する遺伝子をユリから特定することに成功

2 特定した遺伝子の発現を抑制し、日持ちが約2倍に延長したユリの作出に成功



3 老化遺伝子の転写を阻害する化合物を検出

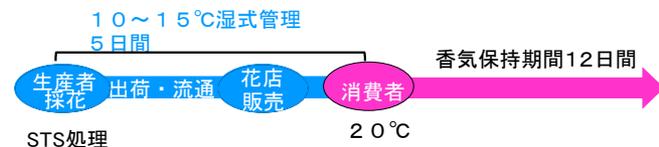
日持ちの良い新品種の育成と新規品質保持剤の開発に展開

花きの香りを保持する技術の開発

バラとカーネーション切り花の香気成分のカタログ化と香りの発散に与える品質保持剤や環境条件が与える影響を明らかにし、香りの保持に適した管理技術を開発

1 バラは、採花後5°Cで湿式で保管することで、消費者での香りの保持期間を向上させることを実証

2 カーネーションの香りにはオイゲノール系と安息香酸メチル系がある。オイゲノール系が香りの持続性に優れ、湿式管理することで、香気成分の発散が維持されることを実証



「花きの香り百科事典」として
農研機構のホームページ上で公開